

子どもの体験ひろば 体験ブース

①「出雲ドームde健康フェスティバル2017」

期 日：平成29年4月29日（土） 場所：出雲ドーム

参加者数：536名（子ども345名、大人191名）

内 容：「チャレンジウォールキッズ」「カプラ」

成果と課題：○昨年に続き人気であった。小さいお子さんの参加が多く、小学校低学年になると、得意な子、苦手な子の差が見られた。ただ、苦手な子でも途中で落ちてでもまた並びなおし再挑戦していたので、名前の通り「チャレンジウォール」であったと思う。

○カプラは小さい子ども連れの家族が取り組むのに手頃なプログラムである。ボルダリングをしている子どもを見守りつつ出ること、また、ゆっくり座ってできることから、ボルダリングとセットで出展するには非常に良い組み合わせだと思う。

●出雲ドームは下が人工芝であるため、落ちて大きなケガをすることはないが、ぎりぎりまで耐えて、最後に手を放して落下した場合、ホールドにひざ等をぶつけてしまう可能性があるので、「落ち方の指導」が大切だと思う。



②「サンレイクフェスタ」

期 日：平成29年4月30日（日） 場所：島根県立青少年の家 サン・レイク

参加者数：768名（子ども522名、大人246名）

内 容：「チャレンジウォールキッズ」「カプラ」

成果と課題：○チャレンジウォールキッズは、子どもの興味・関心が高い。ベえくんを入口に配置することで、集客の効果がより高まった。

●参加者に安全指導をしながら、より効果的な広報活動を行うためには、適正な人数の職員・ボランティアの確保が必要である。



③「伊ワミ村田製作所・グリーンフェスティバル」

期 日：平成29年5月3日（水） 場所：（株）伊ワミ村田製作所

参加者数：214名（子ども127名、大人87名）

内 容：カプラ、キッズ体育、スナッグゴルフ

成果と課題：○子どもの体験ひろばで初めて「キッズ体育（幼児向けマットを利用した体験コーナー）」

を行ったが、マットの形状と色のカラフルさにより、多くの幼児連れが体験に訪れた。

○スナッグゴルフを体験できるコーナーを設け、多くの方にスナッグゴルフを知ってもらえる良い機会となった。

●テント一張でカプラとキッズ体育を行うには狭かった。

●スナッグゴルフは、晴天で、芝生があることを見込んで急遽実施することとしたため、場当たりの対応になったので、事前のルール設定が必要である。



カプラを積み上げて、カプラタワーを作っていました。



カラフルでいろんな形状のマットを飛んだり、潜ったりいろんな動きで楽しんでいました。



伊ワミ村田製作所のスタッフの方も、スナッグゴルフに夢中になっていました。

④「島根県立少年自然の家オープンデー」

期 日：平成29年5月14日（日） 場所：島根県立少年自然の家

参加者数：521名（子ども406名、大人115名）

内 容：チャレンジウォールキッズ

成果と課題：○大変好評で、自然の家に来たほとんどの子供が参加してくれた。

○交流の家の存在を知らない方や家族で利用できることを知らない方が多数いた。

家族に施設を利用する際の料金の安さやプログラムの豊富さ、周辺地域に様々な体験ができること等をアピールし、多くの方から「利用したい」という声をいただいた。

●今年度の事業紹介チラシ（一覧）ができていない。交流の家の事業のアピールをする上で、チラシがあるとさらに効果が高まると感じた。次年度は、4月末から始まる体験ひろばに向けて、準備をしていく必要があると感じた。



⑤「大田市秋の彼岸市」

期 日：平成29年9月23日（土）～24日（日） 場所：大田市駅通り周辺

参加者数：1326名（子ども897名、大人429名）

内 容：【両日】チャレンジウォールキッズ、 【1日目】カプラ、ディスクゲッター、
【2日目】絵本の読み聞かせ、折り紙で本のしおりづくり、
巨大絵本「海の中を描いてみよう」

成果と課題：○1日目と2日目の内容を変えることで、多くの活動を体験してもらうことができた。

○2日目は仁摩図書館と連携し、読書コーナーの設置や読み聞かせをした。小さな子供連れの家族や小学生などがじっくりと本に接することができた。併せて、「さんべ絵本フェスタ！」のPRをし、たくさんの方に興味をもってもらうことができた。



⑥「コスモス祭り」

期 日：平成29年10月8日（日） 場所：飯南町志津見

参加者数：483名（子ども303名、大人180名）

内 容：カプラ、キッズ遊具一式

成果と課題：○天候も良く、大勢の来場者で溢れた。交流の家のブースもカプラ、キッズ遊具ともに大好評で、子どもたちが入れ替わり訪れた。カプラは、大人も楽しんでた。

○翌週のさんべ祭をはじめ、今後の事業について、チラシを配布し、PRを行った。
神楽を好きな親子連れも多く、チラシを持ち帰る姿が印象的だった。

○話をした親御さんの多くは、交流の家の場所を知らないが、サヒメルまではわかる、
ということだった。施設や利用の内容を知ると、「一度施設にも行ってみたい」、
「来週のさんべ祭に行ってみたい」など、興味を持たれた様子も見られた。



⑦「第39回さんべ祭」

期 日：平成29年10月14日（土）～15日（日）

場 所：国立三瓶青少年交流の家 第6研修室他

参加者数：4238名

内 容：①竹細工（マイはし作り）②木の葉のスタンプバック③さんべリンピック 2017in さんべ祭
「遊んで身に付く 36 の基本的な動き」 ④カプラ ⑤茶道 ⑥バウムクーヘン作り
⑦展示・映像コーナー ⑧ボルダリング体験
⑨宿泊者対象プログラム

A. 大カプラ大会 B. 絵本読み語り会 C. 天体観察会 D. 神楽

成果と課題：○交流の家で実施しているプログラムを実際に体験してもらうことで、主にファミリーに対して有効な広報活動を行うことができた。

●地元の講師の先生や高等学校の協力を得ることで、日本の文化にふれる貴重な体験の機会を提供できたが、立派な施設があるにもかかわらず、通常の利用につながっていない。広報の仕方を含め、利用促進のための工夫が必要である。



木の葉のスタンプバックづくり



さんべリンピック



神楽体験

⑧「イオン体験ブース」

期 日：①平成29年10月21日（土） 場所：イオンモール出雲

②平成29年10月22日（日） 場所：イオン松江

参加者数：2768名（子ども1869名、大人899名）

内 容：国立三瓶青少年交流の家 チャレンジウォールキッズ（ボルダリングボード）
島根県立青少年の家（サン・レイク）レザークラフト（しおり）
島根県立少年自然の家 創作活動（目玉っちキーホルダー、ぶんぶんゴマ）
三施設共通 カプラ

成果と課題：○大型の商業施設と連携することで、大変多くの方にプログラムの提供と広報活動を行うことができた。また、島根県内の青少年教育施設と共同で出展することで様々な種類のプログラムを実施することができた。

○「いわみん」を活用し、島根県東部において石見地域の体験プログラムを紹介することができた。



⑨みすみフェスティバル

期 日：平成29年11月11日（土）～12日（日） 場所：三隅中央会館

参加者数：11日 915名（男性433名、女性482名）

12日 663名（男性338名、女性325名）

内 容：チャレンジウォールキッズ、カプラ、（子ども体験遊びリンピック）、（子ども体験遊びリンピック）

成果と課題：○初日にPRコーナーを行ったことにより、多くの方にブースの存在を知ってもらうことができた。（PRコーナーの様子は、ローカルテレビでも生放送され、その放送を観て来場する方もいた。）

○スタンプラリーの行き先にも加えてもらったことにより、多くの方が足を運びきっかけになった。



ステージで三瓶地域のことや体験の風についてPR。ローカルテレビでも放送されました。



閉眼片足競争の様子。メダルを目指して頑張りました！



チャレンジキッズウォールの様子。何度も何度もチャレンジする子もいました。

⑩美郷町産業祭『みさとふるさとまつり』

期 日：平成29年11月12日（日） 場所：邑智小学校校庭・体育館

参加者数：114名（子ども65名、大人49名）

内 容：カプラ、長さドンピシャ（子ども体験遊びリンピック）、時間ドンピシャ（子ども体験遊びリンピック）

成果と課題：○遊びリンピックについて、午前の部、午後の部と分けたことで、多くの方に上位入賞を狙うことができ、参加者の意欲向上につながった。

○「長さドンピシャ」は、子どもの体験広場では、ほとんど実施したことが無かったため、今回のノウハウを今後に活かすことが可能となった。



魔法の積木「カプラ」の活動は、積みば積むほど夢中になる面白さがあります。



メジャーなしで10mを予想して歩きます。子供も大人も一緒になって、挑戦していました。



ストップウォッチを見ずに、60秒ピッタリ計ります。何度も挑戦する子もいました。

⑪『浜山公園まつり』

期 日：平成29年11月23日（木・祝） 場所：浜山公園

参加者数：910名（子ども569名、大人341名）

内 容：チャレンジウォールキッズ

成果と課題：○年度途中に依頼を受け、参加をした。ボルダリングボードの搬入や返却は、主催者が対応し、交流の家の負担は少なかった。

○開始前から終了まで長蛇の列となり、人気の高さが感じられる。県立大学出雲キャンパスの学生ボランティアに運営のサポートをしてもらった。

●搬入時にボルダリングボードの部品が破損した。破損した部品については、主催者が用意してくれ、修正することができた。しかし、部品の結合部が不安定なため、今後も同様な問題が起こる可能性がある。強度を高める工夫が必要である。



⑫『しまねふるさとフェア』

期 日：平成30年1月20日（土）～21日（日） 場所：旧広島市民球場跡地

参加者数：1867名（子ども1139名、大人728名）

内 容：国立三瓶青少年交流の家 創作活動（まが玉づくり）

島根県立青少年の家（サン・レイク） レザークラフト（しおり）

成果と課題：○広島市民球場跡地での開催ということで、多くの方に三瓶の魅力をアピールすることができた。

○まが玉づくりは、用意した200セットが2日目の昼すぎには完売となった。多くの広島の方に島根らしいプログラムを提供することができた。

●前日に広島に入っての準備や当日の対応を2人のスタッフで行ったが、来場者が多く大変であった。職員を3人つけることが難しいようであれば、ボランティアスタッフの協力が必要である。

●水場が遠かったため、まが玉作りで汚れた手を洗うことが難しかった。近くに水場のある出展場所を確保できると良い。



ブース全体の様子。島根県立青少年の家（サン・レイク）と共同で出展しました。



まが玉づくりの様子。作成に時間がかかるため、作り方を聞き、購入して持ち帰る人もいました。



クルミをバケツに入れ、500gちょうどにするおもさドンピシャ。盛り上がりました。

⑬さんべ志学の雪あかり

期 日：平成30年2月11日（日） 場所：三瓶町志学（鶴の湯横）

参加者数：93名（子ども60名、大人33名）

内 容：ディスクゲッター、焼きマシュマロ

成果と課題：○ディスクゲッターは、雪が舞う寒さの中でもやり易く、好評だった。子どもも大人も、ドッジビーを投げた後は、きちんと集め、的を貼り直したので、自然に列ができ、スムーズに進めることができた。

○ボランティア1名が本部の抽選会の役員として参加した。真面目に取り組み、地域の方に大変喜ばれた。地域内外問わず、交流の家の認知度を高める貴重な機会に感じた。



寒くても、ディスクゲッターは大人気！よりたくさんの的抜きを目指して、何回もチャレンジしてくれました。

日が落ちると焼きマシュマロ開始。すぐに毎年楽しみにしているという地元の子もたちの列ができました。

夜になると幻想的な雰囲気。雪の中、灯ろうを眺めながら、のんびり歩くのもいいものです。

⑭しまねスプリングフェス2018

期 日：平成30年3月17日（土） 場所：くにびきメッセ

参加者数：465名（子ども330名、大人135名）

内 容：チャレンジウォールキッズ

成果と課題：○パネルで仕切られていたため、そのパネルをポスターや掲示で有効に使うことができた。チャレンジウォールキッズの注意事項や遊び方の掲示を、待ち時間に目を通せるようにしたことで、スムーズに活動してもらうことができた。

●職員2名体制を組んでいたが、人が多くなると2人では対応が難しかった。計画時から3名体制、またはボランティアスタッフが必要だったと感じた。



チャレンジウォールキッズは子供たちに大人気でした。何回も挑戦する子供が何人もいました。

壁面のパネルに貼った掲示物で、交流の家に設置予定の遊具やキッズスペースのPRもできました。

MCからインタビューされました。全館放送で、交流の家やブースの宣伝を行いました。